

# 汚泥発酵肥料の栽培実証に関する検討会議事録

日時：令和5年12月21日 午後1時15分～1時45分

場所：(株)マルクニファーム圃場および事務所(熊本県阿蘇郡高森町中220)

出席者：

(株)マルクニファーム代表取締役 中山 修、農場長 児玉 幸之助、取締役 児玉 裕美、主任 本田 浩二、児玉 邦成  
 昭光ファームネット(株)代表取締役 柳橋 篤

議題：

1. 汚泥発酵肥料「エコ コンポスト(商品名ドロンパ)」の栽培実証結果の報告
2. 肥料利用者からのフィードバックの検討
3. 今後の改良点と展望

議事内容：

## 1. 汚泥発酵肥料「エコ コンポスト(商品名ドロンパ)」の栽培実証の報告

- 汚泥発酵肥料「エコ コンポスト(商品名ドロンパ)」の露地野菜(キャベツ 80ha、ばれいしょ20ha)での栽培実証について、肥料の施用効果と栽培状況についてのフィードバックが得られた。

## 2. 肥料利用者からのフィードバック

- 肥料利用者から、肥料の施用数、品質、作物への効果に関して次のとおりフィードバックがあった。

イ) カリウム(K)施用量の減少：化学肥料の代替として窒素(N)量を維持するよう施用した結果、下表のとおりカリ(K)施用量が対前年で減少した。

(10aあたり、kg)

	肥料	施用量	窒素(N)	リン酸(P)	カリウム(K)
R4	鶏フン(3-3-3)	80	2.4	2.4	2.4
	オール14	100	14.0	14.0	14.0
	ひかりカリアン (16-2-12)	40	6.4	0.8	4.8
	合計	—	22.8	17.2	21.2



	肥料	施用量	窒素(N)	リン酸(P)	カリウム(K)
R5	ドロンパ(3.3-5.2-0.3)(※)	160	5.3	8.3	0.5
	野菜化成(14-12-13)	80	11.2	9.6	10.4
	ひかりカリアン (16-2-12)	40	6.4	0.8	4.8
	合計	—	22.9	18.7	15.7

(※)ドロンパの成分は、平均的な計測値である。

ロ) 農薬散布回数の減少: 令和4年は4回防除を行ったが、今年は3回であった。理由は、昨年の鶏糞堆肥から適正処理された汚泥発酵肥料に切り替えたことで害虫の発生が軽減されたためである。

ハ) 収量: キャベツ、ばれいしょとも例年通りの収穫高が得られた。

○ 上記から、汚泥発酵肥料エココンポスト(商品名ドロンパ)は、化学肥料の窒素、リン酸成分の代替として遜色なく利用できたことが確認できた。

### 3. 今後の改良点と展望

○ 汚泥発酵肥料を利用しても収量は維持できる上、堆肥も一因である害虫発生も軽減された結果農薬コストや防除に係る人件費の抑制に貢献することは非常に良い結果であった。

○ 汚泥発酵肥料エココンポスト(商品名ドロンパ)は微生物・有機物・ミネラルを豊富に含むため、堆肥と同様に作物の根圏環境を整える効果が認められた。

○ 今後も、R7年度の実績面積 100haに向けて、国内資源由来肥料である汚泥発酵肥料エココンポスト(商品名ドロンパ)を施用していく。

#### 備考:

- 12月20日現在施用袋数: 4,989 (99,780kg)